

平成27(2015)年度 専門学校禅林学園

自己評価結果報告

本校では、一般社団法人 香川県専修学校各種学校連合会による「学校評価モデル」に準拠して自己評価を実施し、また、評価結果をもとに学校関係者評価を実施しました。

本報告書は、自己評価報告書より「評価結果（総括）」「取組状況とその分析」「今後の改善方策等」を抽出列記し、学校関係者評価委員会における評価コメントを付記したものです。

(1) 教育理念・目的・育成人材について

1－評価結果（総括） <ul style="list-style-type: none">・本校の教育理念等は開校当初より一貫しており、また、目的も時代により表現の工夫はされたものの一貫している。理念ならびに目的は、日々の授業等においても学生に語られ、教育の柱となっている。
2－取組状況とその分析 <ul style="list-style-type: none">・教育理念等は、公式Webサイトや入学案内パンフ、学生便覧などで広報・周知がはかられている。ただし、少林寺拳法関係者には知られているものの、それ以外には知られていない現状がある。・社会のニーズと本校の将来構想については、教員会議等において情報と意見交換を重ね、あるべき教育を常に模索している。
3－今後の改善方策等 <ul style="list-style-type: none">・社会のニーズに応じた教育や学校運営についてさらに検討を継続する。・教育理念等のよりわかりやすい説明、表現を工夫する。
[学校関係者 評価コメント] <ul style="list-style-type: none">・教育理念や育成人材像は、学生の行動などからもよく理解できる。・教育理念に大いに賛同する。・評価内容は適切である。

(2) 学校運営について

1－評価結果（総括） <ul style="list-style-type: none">・毎年度の事業計画を策定し、目標、重点課題等を掲げて学校運営に取り組んでいる。予算の執行及び事業総括や決算も適正に行われており、教育活動や学校運営に支障はない。
2－取組状況とその分析 <ul style="list-style-type: none">・寄附行為や諸規程のもと、理事会・評議員会、教職員会議等によって運営が行われている。・全教職員の相互の意思疎通、コミュニケーションもきわめて良好であり、日々の教育や運営に関する意思決定や実行も、スムーズに機能している。
3－今後の改善方策等 <ul style="list-style-type: none">・事業計画における重点課題等は年度末に総括を行うが、年度途中での点検協議を行うようにする。・諸規程の内容について、教職員が十分に把握・理解するよう何らかの機会や仕組みを設けるようにする。
[学校関係者 評価コメント] <ul style="list-style-type: none">・評価内容は適切である。

(3) 教育活動について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・平成27年度事業計画に則り、滞りなく教育活動を行っている。授業内容、学生指導や成績評価など、教育活動の状況は概ね良好である。・学生の状況に応じた教育到達レベルの見直し、キャリア教育や地域に根差した教育の充実などについては、今後引き続き取り組む必要がある。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・教員同士による会議や研修を随時行い、教育に関する情報の共有、指導力や教育モチベーションの向上に努めている。・通信制におけるレポート添削、スクーリングといった新たな教育の取り組みも今のところ支障なく行われている。遠隔地からスクーリングに来る学習意欲の高い通信制学生の存在は、全日制学生のみならず教員の指導意欲向上にもよい影響をもたらしている。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・少林寺拳法関係団体との連携のもと、少林寺拳法の資格取得に関する到達レベルや教育カリキュラムの見直しをはかる。・キャリア教育の充実に向けた検討を教員間で行う。・地域への貢献活動等について、地域との連携のもと引き続き検討する。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・県内企業でのインターンシップに取り組むべき。学校やその教育に関する正しい理解にもつながる。・授業に清掃やいろいろな作業が導入されているが、小さなことでも安全面の観点が必要。

(4) 学修成果について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・卒業生の就職や進学については毎年、概ね良好である。また、卒業後に少林寺拳法指導者の道に進む者もいる。・ただし、学生のほとんどが県外人のため、卒業後は望んで各地元で就職するため、県内に残る者は少ない。県内企業等との関係づくり、就職指導については手薄な面がある。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・進路指導は、学科担任が兼務している。これにより就職率が低下したということはないが、ただし、学校としての就職情報や指導ノウハウの蓄積は疎かになりやすい。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・進路指導に関する情報やノウハウがより蓄積できる体制づくりをする。また、就職指導を含む授業形態を検討する。・県内企業等への就職を選択肢に含めての進路指導を行う。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・資格や免許の取得も大切だが、禅林学園は社会に出て本当に必要となる力、社会人基礎力や人間性を高める教育にこそ力を入れるべき。・多くの学生が卒業後、少林寺拳法の専門指導者となり人づくりに取り組んでいる。これも立派な社会貢献だと評価できる。・少林寺拳法関係者以外へのはたらきかけが弱い。少林寺拳法の知名度を活かして県内企業にもっと広報すべき。

(5) 学習支援について

1－評価結果（総括） <ul style="list-style-type: none">・授業や学校生活等についての学生からの相談には、学科担任が常時対応している。また、学生個々の学習や生活の状況はほぼ全教員で共有されており、学習、進路、生活全般にわたり、学生への対応は綿密なものとなっている。
2－取組状況とその分析 <ul style="list-style-type: none">・全寮制のため、学生と教員(舎監)との関係が親密である。加えて教員間の情報共有が密であるため、学生に生じた問題を放置するといったことがない。・卒業生の動向把握、卒業後の支援については必ずしも十分ではない。
3－今後の改善方策等 <ul style="list-style-type: none">・卒業生の動向(就業状況等)の把握に努める。また、例えば、起業して活躍している卒業生による体験談や講義を在校生の教育に活用するといった取組みを検討する。
[学校関係者 評価コメント] <ul style="list-style-type: none">・全寮制でかつ学生と教員とのかかわりが深い。他の学校にはないこうした特徴を大切にすべき。・卒業後の動向を追跡把握する仕組みが必要。学校支援に協力したいOBは多くおり、社会で活躍しているOBを活用して特長ある授業も可能。

(6) 教育環境について

1－評価結果（総括） <ul style="list-style-type: none">・校舎が少林寺拳法の本部施設と隣接しており、年間を通して多くの関係者との交流や各種行事の体験が可能である。そうした環境自体が大きな教育的効果を秘めている。・学校施設や設備についてはとくに問題はなく整っている。ただし、一部老朽化による補修や整備が必要なものもあり、順次実施している。・今年度の防災訓練が現時点ではできていない。
2－取組状況とその分析 <ul style="list-style-type: none">・独自の環境がもつ教育的効果は、まだ十分には生かしきれていない。各種行事への参加や手伝いといった経験から得られる教育的効果をあきらかにして、将来的には校外実習やインターンシップといった教育システムの一環としてより明確に位置づけたい。・防災訓練については、災害支援も含めた教育の一環として位置づけて実施する。
3－今後の改善方策等 <ul style="list-style-type: none">・少林寺拳法関係団体の理解と協力のもと、本校ならではの独自の教育システムを作り上げる。
[学校関係者 評価コメント] <ul style="list-style-type: none">・少林寺拳法本部という地の利、もともとあるすぐれた教育環境は財産である。・ただの防災訓練でなく、助け合いや人助けに役立つ防災教育に取り組んでほしい。

(7) 学生募集と受入れについて

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・学生募集は年間計画にもとづき積極的に実施しており、また、入学者の納付金等の設定や取り扱いも適切に行われている。・しかしながら、広報活動は十分ではなく、学生募集の時期や方法、内容についてはもっと効果的な方法をとる必要がある。以前の調査では、少林寺拳法会員においても本校の詳細を知らない者は多く、比例して関心も低かった。・学生募集は適宜行っているが、結果として入学者数は低迷している。結果を自己評価するならば、Dである。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度は方針を転換して、Webサイトを募集の柱とし、リーフレット、ポスターを従とした。とくに折々の少林寺拳法の行事等においては、映像の活用、リーフレット等の活用により学生募集に努めた。・年代も志向もそれぞれの対象に対して、一律の宣伝だけでは関心をもってもらうことは難しい。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・学生募集に関しては、少林寺拳法関係団体の協力を得て、より効果的であるように高齢層や若年層など、また志向別に関心のある情報を対象別に提供する。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・社会人基礎力の養成にすぐれている点をもっとアピールすべき。・少林寺拳法だけをやっている学校と誤解している地域住民も多い。奉仕作業や街歩きなど住民とかかわる行事を通して、もっと相互理解を深めるべき。

(8) 財務について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・予算の編成及びその執行は、適正かつ厳正に行われているが、収支バランスが適正であるために学生数の増加をはかる必要がある。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・予算の編成及び執行は、寄附行為及び経理規程に則り適正に行われている。また、収支決算は会計監査が行われ、結果が評議員会及び理事会に報告されている。・予算の執行は、各担当による事業の効果や効率の検討と、経理課による財務状況チェックの上で校長決裁により行われる。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・広報活動に一層の重点を置くと共に、ライフスタイルや学習ニーズに応える柔軟な学びのシステムを検討し、引き続き学生数の増加をはかる。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・評価内容は適切である。・学生数増加に向けた関係団体とのさらなる連携と取り組みを。

(9) 法令等の遵守について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・学校運営は、関係規程や法令等を遵守してほぼ適正に行われているが、自己評価結果の公表は行ってこなかった。・個人情報の取扱い規程を定めているが、策定当初に教職員に周知されたのみで、引き続いて定期的な教育が必要である。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・不明や不確かな点については、その都度関係規程や法令等を確認している。さらに不鮮明な点については、適正を期すために監督官庁に問い合わせた助言や判断を受けて対応している。・学校運営や教育活動に必要な諸規程は概ね整備されているが、一部、教務関係で「学生便覧」等に要項として記載され運用されているものがある。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員への関係規程や法令等の周知や再教育、また、諸規程の整備と見直しを行う。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・評価内容は適切である。

(10) 社会貢献・地域貢献について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・学校施設の一般への開放、学生や教職員によるボランティア活動などを行っている。機会は多くはないが、大切な教育活動の一環として、今後もできる限り取り組む。
<p>2－取組状況とその分析</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア活動は、定期的には年2回～3回程度行っている。いずれも単なる作業ではなく、その意義、企画から実行、総括までを授業の一環として取り組んでいる。
<p>3－今後の改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none">・学生寮が地域の災害時一時避難所に指定されており、災害時の対応を含めた訓練計画を立てて実施する予定である。
<p>[学校関係者 評価コメント]</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の河川清掃など、学校としての協力にとっても感謝している。学生は皆、進んで作業を引き受けてくれるなど、今どき珍しい若者たち。教育の賜物と感心している。・今後も自治会では行事を企画するので是非参加してほしい。

(11) 総括について

<p>1－評価結果（総括）</p> <ul style="list-style-type: none">・目的や意義は教職員全員で共有できた。評価の体制と段取りを設定して進めたが、一部の担当者の作業量が多くなり、うまく均等には分担できなかった。・教職員全員が関わって評価を共有できたので、今後の業務遂行にとっても有意義であったと思われる。

2－取組状況とその分析

「自己評価委員会」校長代行(教頭)、学科科長、教務課主任、事務長、広報室室長

[1次評価] 教職員会議 (教育)教頭、教員 (運営)事務長、職員



[2次評価] 「自己評価委員会」



[3次評価] 「自己評価委員会」／教職員会議



『自己評価報告書』の作成

3－今後の改善方策等

- ・評価の判断材料に用いるデータ等は、できる限り事前に分析し整理する。
- ・教職員同士のディスカッション時間を長くとるようにする。
- ・より本校に関連する評価項目を盛り込む。

[学校関係者 評価コメント]

- ・詳細な項目についての検討を、今後の学校運営に生かし、さらに充実した教育に取り組んでほしい。
- ・今回の学校関係者評価は、学校との連携をさらに深めるよい機会となった。

《 自己評価結果 (総括) 》

目標達成状況

- ・今年度からの通信制の設置により、全日制とは異なる年代層の入学が見られた。仕事をしながら入学した50～60歳代など、幅広い年代層における修学志望者の掘り起こしにつながることを実証された。
- ・しかも通信制学生は、遠隔地にもかかわらずスクーリングの受講状況がきわめて良好であり、学習意欲も高い。こうした新たな教育状況に対して、教員も魅力ある授業、教育力のレベルアップを目指し、昨年度に増して会議や研修による研鑽を行っている。
- ・一方で、学生数増加に向けた広報活動は、さらなる工夫が必要である。特に通信制については、通信制教育の内容や仕組みについて十分な理解や関心を得るには至らなかった。

今後の課題・改善方策

- ・いろいろ課題はあるが、学生数増加に向けての効果的な広報活動の展開が優先的課題である。
- ・全日制、通信制ともにより柔軟な学びのシステムをさらに構築する必要がある。
- ・こうした取り組みによって、本校の独自性や魅力をアピールしていく。

[学校関係者 評価コメント]

- ・通信制の開設など、新たな試みをこれからも応援したい。